

第0章 インTRODクシヨン --- 講義で扱うトピックの概観 ---

1 為替レートとは何か？

日本に住んでいる私が、たとえばアメリカで営業している業者からマイケル・ジャクソンの DVD を 50 ドルで購入するとしましょう。このとき、アメリカの業者は当然ドルでの支払いを要求するでしょう。なぜなら、円を受け取ってもアメリカでは使えないからです。したがって、私は DVD の購入代金を「ドル」で支払わなければなりません。

ところが、同じ理由で、日本に居住している私は通常「円」しか持っていません。そこで、ドルで支払いをするために、私は自分の持っている円でドルを購入しなければならないのです。

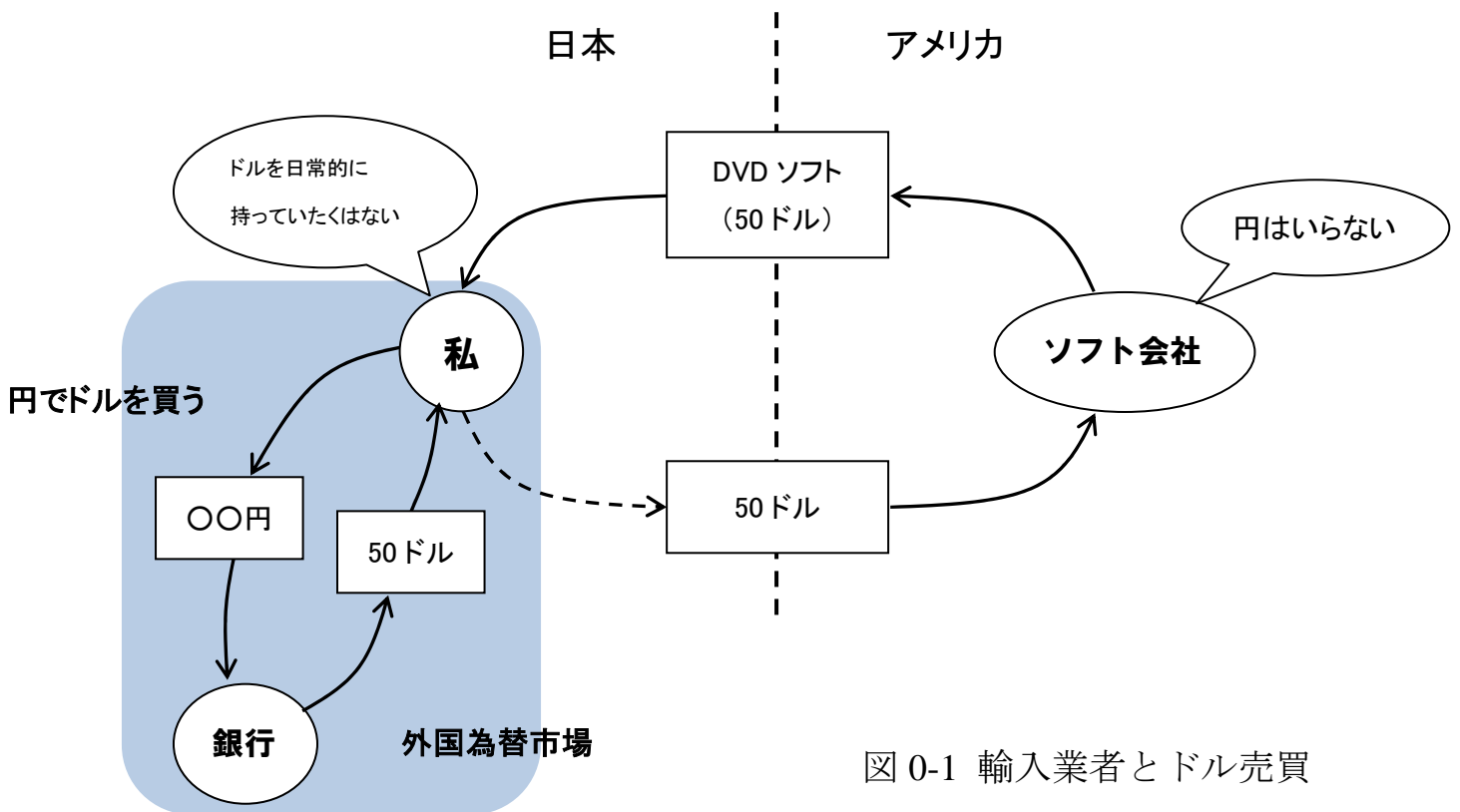


図 0-1 輸入業者とドル売買

50 ドルを円で買わなければならない

⇒ 50 ドルを買うのに何円必要か？

⇔ 1 ドルを買うのに何円必要か？ = $\frac{\text{ドルの円で測った値段 (価値・価格)}}{\text{ドルの円で測った値段 (価値・価格)}}$

- ・円とドルの為替レート
- ・円＝ドル・レート
- ・円建てドル・レート

仮に、為替レートが1ドル91円であるとする、1ドル入手するのに91円必要ですから、先のDVD購入代金50ドルを入手するには、 $91 \times 50 = 4550$ 円必要になります。そこで、私は近所のわりと名の知れた銀行に出かけて行って、4550円を50ドルに替えてもらい（＝外国為替市場における円ドルの売買）、アメリカの業者に支払うのです。

なぜ銀行はドルを持っているのか？

- ⇒ アメリカに日本製DVDソフトを輸出する日本の業者を考えてみよう。
- ⇒ 輸出も半分以上は「ドル建て」（＝売買契約がドルでなされている）。
- ⇒ 日本の輸出業者は代金としてドルを受け取る。が、ドルを持っていてはくはない。
- ⇒ 手持ちのドルで円を購入したいと、取引している銀行にドルを持ち込む。
- ⇒ 銀行はこの輸出業者が持ち込んできたドルを、図0-1でドルが欲しいと言って円を持ってきた私に売る。

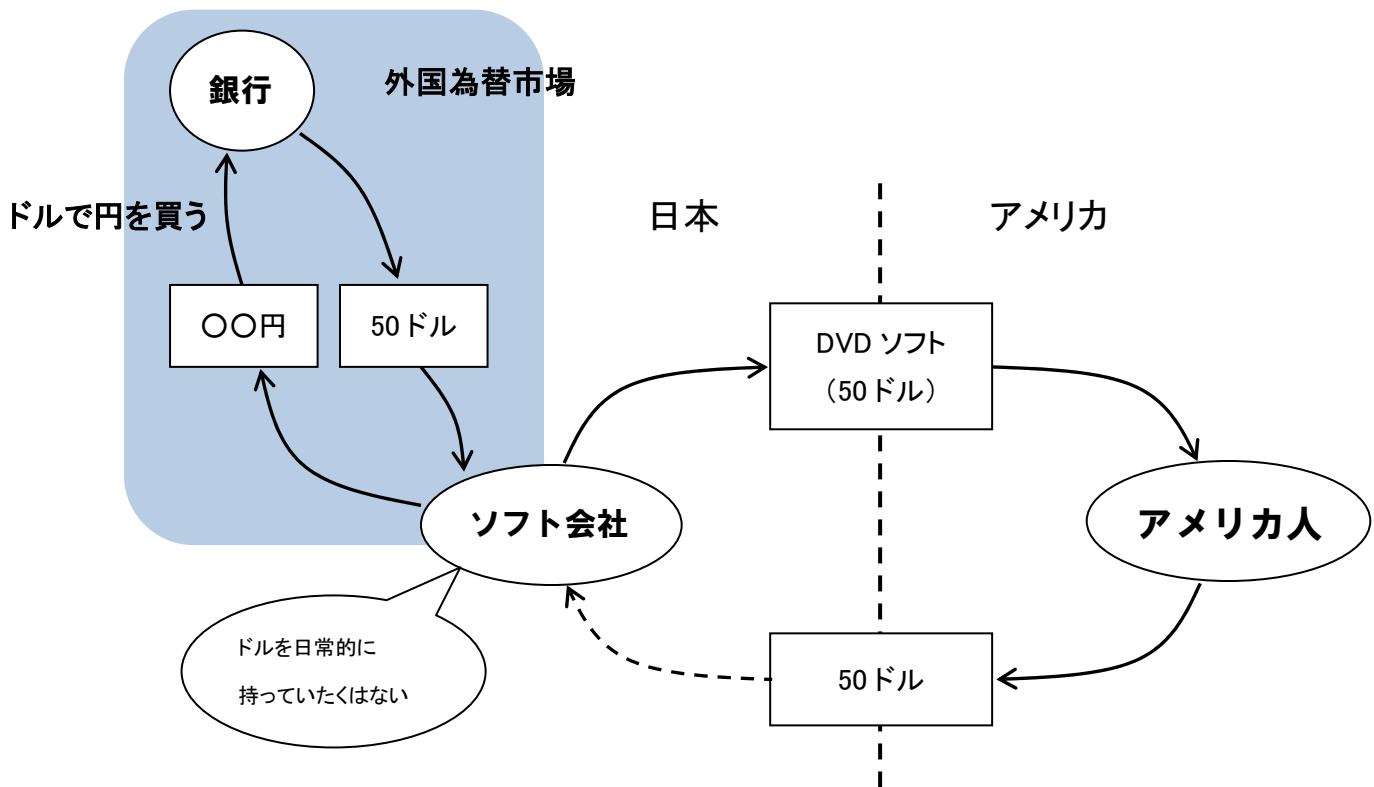


図 0-2 輸出業者とドル売買

銀行は多数の顧客と取引しているため、ドルを買いたい人・売りたい人の両方が多数やってくる。

- ⇒ 「銀行が買いたい人と売りたい人の仲介をしている」というイメージ。
- ⇒ 当然、銀行は時々ドル不足に陥ることもある。逆に、ドルを過剰に持つてしまうこともある。
- ⇒ 他の銀行から不足分のドルを購入する、他の銀行に過剰なドルを売却することもある。